

広報 すぎなみ

Suginami



支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

{ 12/15 }
平成30年(2018年)
No.2243

寄席文字がつなぐ
地域との縁。

黒々とした墨で独特の丸い文字を書く「寄席文字」。江戸時代には200軒を超える寄席があったとも言われ、寄席文字の書き手も多くいました。ところが今では東京で10名、全国でも20名に満たないそうです。橘右女次さんは、そんな数少ない寄席文字の書き手の1人。よわい80を過ぎてもなお、現役で寄席文字を書き続け、最近は杉並で寄席文字を書く機会も増えてきているようです。

特集



すぎなみピト

橘

右

女

次

う

め

じ

Contents — 主な記事 —

6 | 年末年始の区の業務案内 8-9 | 区民等の意見提出手続き(パブリックコメント)の結果をお知らせします 16 | 30年を振り返る 杉並区の主な出来事

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <http://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

一どのようにして寄席文字の仕事をするようになったのか、経緯を教えてください。

私は新潟の小千谷市出身で、就職のために東京に出てきました。しかし就職先に恵まれず、なかなか一生の仕事に出合えませんでした。ところがある日、筆耕の仕事をしなかと声を掛けられました。昔ですから、今のようにパソコンやプリンターがあるわけではありません。世の中に出る文字は、誰かが手書きするか、活版印刷で文字を組む必要がありました。私は東京に出て来たときに、通信教育で速記の勉強をしたくらい字を書くことが好きだったので、筆耕屋さんに丁稚に入り、2年間で仕事を覚えて独立しました。

一文字を書く仕事のスタートを切ったわけですね。寄席文字はいつ頃書き始めたのですか？

筆耕の仕事をしていると、よく「歌舞伎の勤亭流みたいな字で書いてくれ」と依頼が入りました。一度ちゃんと勉強したいと思っていたのですが、歌舞伎文字にはいくつか流派があって、どうしようかと思っているうちに、寄席文字というものもあって、これは橋流だけだと分かりました。なんだかこっちの方が楽しそうだなと思っていて、師匠の橋右近に弟子入りしました。それが40歳の時のことです。

一歌舞伎文字と寄席文字はどう違うのでしょうか。

簡単に言えば、歌舞伎文字は崩し文字なので、一般の人には少し読みづらい場合があるかもしれませんね。落語の高座を見ると、舞台の下手に出



▲右女次さん愛用の筆など

演者の名前を書いた立て看板が置かれていますね。「めくり」と呼ばれるものですが、これに書いてある文字が寄席文字です。客席に空気が出ないように大入り満員の願いを込めて、筆の根元まで墨汁をたっぷり染み込ませて紙い

ばいに筆太の文字を書きます。また高座は連日行われますから、今日よりも明日、明日より明後日とどんどん興行が右肩上がりに良くなりますようにと、字も少し右を上げて書くなど縁起を担ぐので、寄席文字は縁起文字とも呼ばれています。

一仕事はどのように依頼がくるのですか？

私は落語協会や、落語芸術協会には所属していません。断家一門の三遊亭円楽さんのところにおりますから、円楽さんに弟子入りしている断家さんが落語会を開く時に依頼されれば、チラシやめくり、販売物などに寄席文字を書きます。あとは出演者の名前を書く招き看板などでしょうか。また二ツ目が真打ちに昇進したらお祝いの会がありますから、そこで来場者にお渡しする扇子、手拭いに名前を書いたり、口上書きを書いたり。あとは「真打昇進襲名披露」と横看板を書いたりもします。横看板は広げると長さがありますので、杉並の自宅も、紙を広げることができるように6畳、7畳、8畳の続きの部屋があります。「まずは広い家に」と考えて杉並に引っ越してきて、いつかまた引っ越すつもりでいたのですが、いつの間にか40年がたってしまいました。

一杉並区内でお仕事をされたことはありますか？

馬橋稲荷神社で地域寄席があったりした時にはチラシの文字を書いたり、西の市が立てば知り合いの店から声が掛かるので、熊手に名前を書きに出掛けたりします。西の市は夜中まで大層な人出ですから大変なんですけれどもね。

実は私の仕事場はずっと日本橋にありました。忙しかったので伝書バトのように自宅と仕事場を往復していただけで、あんまり地元のことを知らなかったんです。ところがパソコンが普及してきて簡単に寄席文字みたいなものが書けるようになってから仕事がどんどん減っちゃいまして、家にいるようになったら、少しね、地元との関わりも出てくるようになりました。

天沼の熊野神社のお祭りがあるってということで、どなたかが募金を集めに家にいらしたんです。表札の文字が変わっているから興味を持たれて「寄席文字を書いているんです」と言ったら、話が進んで、祭りの舞台のめくりの

文字を書くことになりました。そこからですね、「そろそろ住んでいるまちに貢献しよう」という気持ちになったのは。高円寺演芸まつりのポスターに寄席文字を書いたり、みこしの後ろについて歩いたり、そんなに大したことはやってないですけど、何やかや頼まれればやっています。

一地元との縁も深くなってきているんですね。

そうですね。高円寺の「信濃」というおそば屋さんで長年地域寄席をやっていたら、5年ほど前に50回を数えて一度会を開けたんですけども、そこでも寄席文字を書かせていただきました。文字は興行の前に書きますから、当日出向く必要はないんですけど、行けば楽しいですし、そこでもまた「寄席文字を書いてほしい」なんて頼まれたりすることもあるので、文字を書いたところには極力出掛けるようにしています。こうして

仕事を続けて誰かと話していると気持ちがしゃっきりして、元気でいられるように思います。



広報すぎなみ 1月1日号でも寄席文字が登場します お楽しみに！

寄席文字のおかげで、長く住む杉並に少し恩返しできているのかな。



プロフィール：橋右女次（たちばな・うめじ） 86歳。寄席文字の家元である橋右近に40歳で弟子入り。5年間の修行期間を経て寄席文字の書家として活動を始める。最近は杉並区のイベントのポスターや祭りでの着法被等に寄席文字を書くなど、地元での活動も行っている。

すぎなみピト interview

橋右女次

ど寄席文字のって？

右女次さんに聞きました！

寄席文字は、寄席などの看板や出演者の名前を書いた「めくり」等に使われる独特な文字です。江戸時代から寄席のビラ(ポスター)に使われていた「ビラ字」が、戦後、寄席文字として確立されました。そして現在も、江戸の情緒を醸し出す「寄席の文字」として引き継がれています。



客の大入りを願って隙間なく太く、丸みを持たせて書く

尻上がりに客足が伸びるように、少し右肩上がりに書く

ほかにも?! 寄席文字のほかにも、粋な江戸っ子たちが編み出した文字として、歌舞伎の「勤亭流」、相撲の「相撲字」、千社札などに使われる「江戸文字」などがあります。

右女次さんに、いろいろな「杉」の字を書いてもらいました!

| | | | |
|----------|------------------------------|----------|-------------------------------|
| 杉 | 落語 太い線で右肩上がりに書く「寄席文字」 | 杉 | 相撲 力士を表現し、力強く書く「相撲字」 |
| 杉 | 歌舞伎 隙間なく枠内いっぱい内巻きに書く「勤亭流」 | 杉 | 千社札など 太い線で力強く、直線的に書く「江戸文字」 |

右女次さんの寄席文字が杉並のイベントで活躍中!

31年4月26日(金)~29日(祝)に行われる「東京高円寺阿波おどり台湾公演」で使用される法被の文字をデザインしています。



▲法被のデザイン案



寄席演芸をまちなかで楽しめる「高円寺演芸まつり」のチラシ・ポスター、オリジナル手拭いなども使用されています。

〈来年2月に開催!〉
第九回
高円寺演芸まつり
31年2月8日(金)~17日(日)

高円寺のまちなかの神社や仏閣、銭湯、そば屋、自転車屋にライブハウスなど、あちらこちらが寄席に早変わりする10日間。落語や漫才、講談、浪曲に紙切りなどが楽しめます。
開催・高円寺(高円寺北2-1-2 ☎3223-7500)